

感染症対策・



調査センター



2025(令和7)年8月1日

第13号

編集
発行

名古屋市保健所
感染症対策・調査センター

〒463-8585

名古屋市守山区桜坂四丁目207番地

電話 737-3712 FAX 736-1102

Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp



ホームページ



X(旧Twitter)



YouTube

咽頭結膜熱（プール熱）について

咽頭結膜熱（プール熱）とは、プールを介して流行することがある、アデノウイルスというウイルスによる感染症です。6月ごろから徐々に流行しはじめ、7～8月にピークとなります。

発熱、咽頭炎（喉の痛み）、結膜炎（目の充血）が主な症状です。最近はプール利用における集団感染の報告は見られなくなっていますが、夏の時期は咽頭結膜熱に気をつけましょう！

咽頭結膜熱ってどういう病気？

症状は？

症状は、39度前後の発熱（数日続く）、咽頭炎（喉の痛み、腫れ、赤み）、結膜炎（目の充血、目やに、涙）です。



令和6年度のスズメバチ生息調査結果について



スズメバチの季節変動調査

4月から11月に週1回スズメバチの生息調査（誘引トラップ法）を市内3地点（1地点あたり2調査ポイント）で実施しました。1地点あたりの捕獲数をまとめたものが下の表です。

働きバチが増える8月から10月にかけて捕獲数が増加しています。この時期は巣が大きくなる頃で、刺傷被害も発生しやすくなるので、注意が必要です。

種類	調査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
コガタスズメバチ		16.7	4.0	30.8	17.4	44.3	18.0	10.8	4.3
モンスズメバチ		4.3	3.8	6.5	36.0	109.0	105.0	18.2	0.8
ヒメスズメバチ		0.0	0.3	11.0	3.4	21.5	12.5	1.2	0.0
オオスズメバチ		7.7	8.8	12.5	23.6	106.5	170.5	99.4	39.8
その他		4.3	0.0	1.8	0.8	4.8	0.5	0.6	4.8



ファネルトラップ
誘引剤(発酵糖液)が入っています。



スズメバチの分布調査

スズメバチ(働きバチ)の活動が最盛期を迎える8月から9月の間の2週間、市内12地点(1地点あたり2調査ポイント)に誘引トラップを設置し、スズメバチ類の分布を把握するための調査を行いました。自然豊かな市東部ではオオスズメバチやモンスズメバチが多く、都市部(中西部平地)ではコガタスズメバチが多い傾向にあります。

